オスウィーゴー運動と東京師範学校の改革(1879)

小林洋文

はじめに

1872年（明治５）に設立された東京師範学校は，最初の官立師範学校として，その後設立された官立・府立各師範学校のモデルとされた。（東京高等師範学校・東京教育大学の前身である。）

開校して間もない1879年（明治12），東京師範学校は，わずか１年の間に，教育課程（当時の用語は「教則」）の根本的な改正・試験方法の改善・簿書の整備および附属小学校の教育課程の改正を次々におこなった。この改革は，教職の専門性を追究する教育課程編成の最初の本格的な試みであり，わが国の戦前の師範学校教育の歴史において，いわゆる「師範型」といわれるような教員を養成する機関へと変質していった1890年代（明治20年代の後半）以降とは異質な，きわめて注目すべき改革であった。

啓蒙的な教育政策を推進しつつあったこの時期の文部省は，直轄の東京師範学校に対しても，教員養成のための教育実践に内在する固有の論理に即して自律的に展開されつつあるこれらの諸改革を，認める立場をとっていたのである。1875年（明治８），文部省から派遣された伊沢修二・高嶺秀夫らが，アメリカから学んできたいわゆる「ペスタロッチ主義」の教育原理にのっとったオスウィーゴー・ノーマルスクール（The Oswego State Normal and Training School）方式の教員養成の理論と実践の成果を，外在的な圧力による修正をうけずに，そのまま1879年の改革のモデルとして導入することができたのも，おそらくそのためであろう。

このような経緯からみて，1879年の東京師範学校の改革の意義を十分に解明するためには，まず，改革のモデルとなった当時のアメリカにおける教員養成の理論と実践を研究しておかなくてはならない。そこで，拙論は，紙幅の関係で研究の対象をこの部分に限定する。

かつて，わたくしは，この時期の東京師範学校の教育に注目し，教育課程の変化を分析の中心に，論文をまとめたことがあるが，この分野の先行研究は意外に少ない（引用・参考文献①②，および③④⑤⑥）。

（1879年の東京師範学校の改革の意義については，他日，もう一度本格的に取り組んでみたい）。

1　小学師範学科取調員のアメリカ派遣

文部省は，1875年（明治８）３月，師範学校教育の理論と方法を実地に研究させるために，およそ２年間，留学生をアメリカへ派遣する計画をたてた（後述の「伺書）。

創立当初の東京師範学校の教師のなかで唯一の教員養成教育の経験者で，教授法の伝習，教則・教科書の編成などの指導にあたっていた外人教師スコット（Scott, M. M. 1843—1922）は，前年８月すでに退任しており，東京師範学校は実質的な指導者を欠いていた。そのため，スコット退任後の１年間に，教則をたて続けに３回も改訂するという試行錯誤ぶりであった。スコットに代わる師範学校教育の専門家がつよく求められる客観的状況にあったのである。

文部大輔・田中不二磨が政府へ上提した伺書「小学師範学科取調ノ為海外派遣ノ儀伺」は，師範学校創立以来２年半を経過したこの時点における総括ともいうべき内容のもので，興味深い。田中は，次のようにのべている。

「本邦人ノ師範学科ヲ研究シテ其方法ニ通暁セル者今古絶無ニ属シ候ヲ以テ，嘗テ米人スコット氏ニ諮問シ，専ラ彼国ノ成規ニ依遵シ，稍其教則ヲ議定シ，逐次各学区ニ設立候得共，果シテ是ヲ以テ善美ヲ尽シ間然ス可ラサル者ト為スヘキヤ否決シテ保証難致，万一彼ノ成規ニ拘泥シ我力風土人情ニ於テ苟モ其当ヲ失スル等ノ丁件有之候而ハ，将来一般教育上ニ就キ意外ノ謬誤ヲ生シ候モ測ル可ラスト痛心不啻候」。（下線・引用者）。

この伺書は，２つのことを指摘している。すなわち，第１は，従来の師範学校教育の方針がはたして適切なものであったかどうか，このへんで再検討してみる必要があるのではないかということ。第２は，もしも，従来のようにアメリカの教員養成方法一辺倒の態度をとり続けて，日本の実情を無視した機械的導入に陥るような結果

になれば，将来の日本の教育を誤るおそれがあるということである。

この指摘は，師範学校創立の際に，アメリカの「師範学校のやった通りを少しも変更することなくやれ」とスコットに命じた初代文部卿・大木喬任の方針を，田中が転換させようと考えていたことを示している。換言すれば，西洋のモデルを範示されるままに受容する段階から，日本の実情を斟酌しつつ，すぐれたものを受容する段階へと移行することの必要性を自覚するようになってきたということができるだろう。

このような総括に続けて，伺書は，実地調査のために留学生をアメリカへ派遣したい計画がある旨を，次のように嘆願している。

「因テハ略其学科ヲ弁知候適応ノ者若干名ヲ海外ニ派遣シテ其地ノ師範学校ニ従事セシメ，彼ノ実際経験ヲ以テ結構セシ教則・授業ノ規則無遺漏伝習卒業シ，帰国ノ後専ラ該人ニ委スルニ師範学校ノ事務ヲ以テセハ，既ニ彼ノ地ノ真面目ヲ識得候ノミナラス，固ヨリ本邦ノ風土人情諳熟ノ者ニ候得ハ，彼我ノ宜ヲ参伍考訂シ斐然観ルヘキノ良法相立候云々」。（下線・引用者）。

派遣のねらいは，留学生に，アメリカの師範学校（ノーマル・スクール）で「結構セシ教則・授業ノ規則」を漏れなく実地に学びとらせ，帰国後，その成果を師範学校の改革に役立たせたいというところにあった。このような方法は，アメリカのすぐれた点を，日本の実状を考慮しながら日本に適合した型態に改造して採用することができる利点がある，というわけである。

もとより，日本の風土，人情に全く疎い外人教師に，このような斟酌を期待することは無理である。この点でスコットでは限界があったわけであり，またそれが解任の一因ともなっていたと思われる。

文部省から「伺書」が上提されてから4ケ月後の7月8日，小学師範学科取調員に，伊沢修二（官立愛知師範学校校長），高嶺秀夫（慶応義塾英学教師），神津専三郎（中村正直塾で英学勉学中）の3人が選ばれた。

同年9月の新学期に，3人はそれぞれ次のノーマルスクールへ入学した。伊沢は，ブリッジウォーター・ノーマルスクール（The Bridgewater State Normal School, 1840年開校，マサチューセッツ州立）。高嶺は，オスウィーゴー・ノーマルスクール（The Oswego State Normal and Training School, 1861年開校，ニューヨーク州立）。神津は，オルバニー・ノーマルスクール（The Albany State Normal School, 1844年開校，ニューヨーク州立）。

（註・以下，ノーマルスクールは，N. S. と略記する）。

2　アメリカにおけるオスウィーゴー運動と教員養成

(1)　オスウィーゴー運動

1861年から1886年までのおよそ25年間，ニューヨーク州北部，オンタリオ湖東南端にある州立オスウィーゴーN. S. を拠点として全米に展開された「ペスタロッチ主義」による教育改革運動を，アメリカ教育史では，「オスウィーゴー運動」（“The Oswego Movement”）と呼んでいる。

アメリカの教員養成の歴史について優れた研究書を著した三好信浩によれば（文献⑧126 —130 ページ），オスウィーゴー運動は，とくに，次の2つの点で貢献した。

第1の貢献は，イギリス経由の「ペスタロッチ主義」の実物教授（object-lessons, lessons on objects）を各教科に導入して，アメリカの教授方法を改革したことである。実物教授法とは，「諸事物（objects）や現象を観察あるいは実験させ，子どもの感覚の働きにうったえて理解させる方法で，教師は事物・現象を子どもに示しつつ，それについて問答をおこなうことによって，その名称・形態・特質・用法・効用等を教授する」（文献⑦，p. 266，稲垣忠彦執筆）。ハーパーによれば，「その運動の主要な貢献は，教室の中に，多くの型の実際的資料をもち込むことを強調したことであり，それによって，具体的な対象物による直接的な経験をさせたり，操作をさせたりすることを通して，教授するように強調したことである（文献⑨）。

第2の貢献は，「教授方法の改革と関連して，教師教育の大発展をもたらしたことである。……明らかになったことは，師範学校において是非とも学生に教育しなければならない重要な内容が存在していること，および，その内容を教授するためには，教育実習を中心とする合理的な指導が必要であること，の2点であった。とりわけ，教育実習を重視したことは，オスウェーゴー校の大きな特色といわねばならない。……ホリスは，オスウェーゴー以前の師範学校では，教師教育の全体計画の核となるような，体系化された組織原理が欠如していたことを力説している（文献⑩）。……オスウェーゴー師範学校において，教育実習を核にしてその体系化が図られたことの意義は，確かに，重要である。

ペスタロッチの原理に立脚して，初等教育の内容や方法が変革され，そのための教師教育の改善が図られたということは，……近代教育学と教師教育との密接な関連

の例証になるであろう。教師が，教授という複雑な原理と方法を身につけることができるように，その準備教育を体系的に組織化することの方法が明示されたとき，それまでに，師範学校設立を躊躇していた各州は，堰を切ったように，オスウェゴー校を参考にして師範学校を設置しはじめた」（文献⑧，pp. 127-129，⑪⑫も参照）。

つまり，オスウィーゴー運動は，初等学校の教授法の改革運動であるとともに，教員養成教育の改革運動でもあったという点が，拙論の課題との関連でみれば，特に重要である。

(2) オスウィーゴー・ノーマルスクールのカリキュラムの分析

①オスウィーゴーN. S. の成立と発展

カリキュラムの分析に入る前に，学校の沿革史および組織を簡単に紹介しておこう。

〔創立前史〕

校長の自主的判断による学校運営が認められていた当時のノーマルスクールでは，初代校長の教育思想と実践が，学校の性格を決定づける要因であった。

30歳でオスウィーゴ市初代教育長にえらばれたシェルダン（Sheldon, E. A. 1823-1897）は，学区の再編や夜間学校・算術学校など働く青少年のための学校を設立して積極的に教育改革をすすめたが，「teachingがうまくいっているのは2～3にすぎず，他の場合は全く貧弱である」（自伝）とのべていることからもうかがわれるように，教授法の改革に最も関心をはらった。彼は，すべての教師が毎週教育長によってもたれる協議会に出席すべきことを規定した。そこでは，教授法の体系化が目ざされ，トレイニングの結果による各教師の長所が教育委員会に報告された。「彼の指示の下におこなわれるこれらの協議会のプロフェッショナルな性格によって，市全体の学校システムが教育的に進歩させられたと考えられる」。

教授法改革の必要を痛感していた時，トロントの国立博物館に陳列されているロンドンの The Home and Colonial Training-Schoolで使われている教材・教具を見て(1859)，彼は，その学校でおこなわれている教育にひじょうに感銘した。この学校は，ペスタロッチに直接学んだメイヨー兄妹の指導によって，「ペスタロッチ主義」の教育方法を採用している教員養成の学校であった。

市教育委員会の承認をえて，シェルダンは実物教授（object lessons）の教材・教具を300ドルを投じてこの学校からとりよせ，まず，初等学校（プライマリー・スクール）の学習コースを一新した（1859）。教育内容で最も顕著な特色は，Lessons on Objects, Lessons on Form, Lessons on Color, Lessons on Size, Lessons on Human Bodyなど実物教授の科目が大幅に導入されたことである。

ところが重大な困難が生じた。初等学校の教師が，そのような実物教授の教科内容をあまり知らず，ましてそれらの教授法については全く知らなかったからである。そこで，シェルダン自身が教師たちの訓練者・教師にならねばならなくなった。彼は毎週（土），ペスタロッチ教育学を教師たちに講義したが，もっと直接的にペスタロッチ教育学を学ぶ必要を感じて，イギリスのThe Home and Colonial Infant School Societyから高給でJones女史を招いて，教員養成を開始したのである。

教授法の改革の必要性が新しい資質の教師を養成する必要性をよび，そこから教員養成学校がうまれることになったのである。創設の原理を明確にもっての開校，これは，のちのオスウィーゴーN. S. が自覚的に教員養成に取むことになった規定要因の一つといえるだろう。

〔創始期〕

200名規模の初等学校（プライマリー・スクール）の中にtraining classを設けて，現職教師9人を生徒として「訓練」がはじまった（1861）。最初は，授業の観察・実習と教授法の講義を半々におこなっていたが，2年目に実習学校初等部門が置かれ，以後全期間を通じて実習学校の拡充発展が常にはかられた。実習を重視するシェルダンの方針の反映である。

修業年限はわずか1年で，初等学校の授業に直接必要な理論と実践が重視された時期であるが，実物教授法はすでに全米に知れわたるようになっていた。

〔整備期〕 ――1866-1868――

1865年に実習学校にジュニア部門が設けられ，66年，1年制コースを1年半にし，その他に上級コース（advanced course）が，さらに67年4年制の古典コース（classical course）が設けられ，3つのコースが出そろった。

〔確立・展開期〕

1869年，初級コース（2年制）・上級コース（3年制）・古典コース（4年制）の3コース制度が確立し，カリキュラムも整備された（図1参照）。伊沢・高嶺らは，この時期に（1875～78）留学したのである。

〔衰退期〕

オスウィーゴー運動が影響力をもちえたのは，ほぼ1886年頃までのことで，それ以降は徐々にヘルバルト主義にとってかわられることになる（参考文献⑧⑩⑫）。

図 1

The Oswego State Normal and Training Schoolの組織

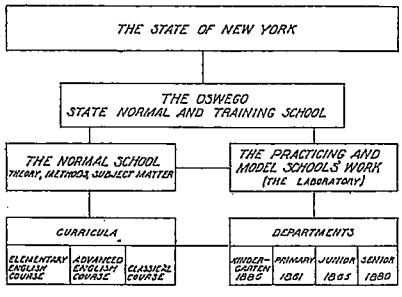

FIGURE V. CHART SHOWING THE ORGANIZATION OF THE OSWEGO STATE NORMAL AND TRAINING SCHOOL (1861-1886)

(Dearborn, N. H., The Oswego Movement in American Education, 1925, P.62)

②オスウィーゴーN. S. のカリキュラムの特徴点

高嶺が留学中の1876年（明治9）9月2日付の文部省発行『教育雑誌』第14号に，前年制定されたオスウィーゴーN. S. のカリキュラム等が翻訳・紹介されている（表Ⅰ）。また，同月16日付の次号には，伊沢が留学中のブリッジウォーターN. S. についての詳しい紹介が掲載されている。たぶん，彼らがどんどん資料を送ってきたのであろう。留学生を派遣中の文部省が，この時期にいかに熱心にアメリカの教員養成に関心を払い，それを摂取しようとしていたかが，雑誌にもよく反映している。

表Ⅰ　オスウィゴー師範学校ノ教則（1875年）

①（各コース共通の第1年目のカリキュラム）

第一年	第一期	算術 文典 地理書 読方 綴字及臨時作文 畫画 習字 軽易体操（毎日）
	第二期	算術 文典及文章解剖 植物学（半期） 作文及修辞 米国史（半期） 生理学及動物学 唱歌 軽易体操（毎日）

②　予科（注・2年制コース）

第一年	第一期	算術 文典 地理書 読方 綴字及臨時作文 畫画 習字 軽易体操（毎日）
	第二期	算術 文典及文章解剖 植物学（半期） 作文及修辞 米国史（半期） 生理学及動物学 唱歌 軽易体操（毎日）
第二年	第一期	教育理学及教育史 学校理財管理法及学校法 物体示教法及初歩学科教授法 弁論，論文及撰択読方 物体示教ハ，物体，図画形容及大小軽重，自在色，声，地位，動物，植物，人身及修身学ヲ綜ウ
	第二期	附属小学演習 論文 撰択読方或弁論

③　本科（注・3年制コース）

予科第一年ノ全科ニ於テ満足ナル試験ヲ経タル者ニアラサレハ，此科ニ入ルヲ得ス

第二年	第一期	代数学 遠景写法 幾何学 撰択読方 物理学 修辞 作文 弁論 軽易体操（毎日）
	第二期	代数 万国史 幾何学及三角法 記簿法（生徒ノ望ニ任ス） 化学 軽易体操（毎日） 英語 文学

		作　文 弁　論 撰択読方
第三年	第一期	金石学 地質学 余ハ予科第二年ノ第一期ニ同シ
	第二期	修身学 地質学（地形，半期） 高等学問ノ法 作　文 附属小学演習 測　定（半期，生徒ノ望ニ任ス）

④ 経科（クラシカル）（注・4年制コース）

予科第一年ノ全科ニ於テ満足ナル試験ヲ経タル者ニアラサレハ，此科ニ入ルヲ得ス

第二年	第一期	代　数 修　辞 幾何学 軽易体操（毎日） 羅甸語 作　文 弁　論 撰択読方
	第二期	代　数 万国史 英文典 羅甸語 幾何学三角法 作　文 弁　論　及撰択読方 軽易体操（毎日）
第三年	第一期	羅甸語 物理学 希臘或近代国語 軽易体操（毎日） 地理学（地形，半期） 作　文 弁　論　及撰択読方
	第二期	羅甸語 化　学 希臘或近代国語 修身学 軽易体操（毎日） 作　文 弁　論　及撰択読方
第四年	第一期	羅甸語 教育理学 希臘或近代国語 物体示教法　及予科教授法 作　文 弁　論　及撰択読方
	第二期	金石学　及地質学 作　文 高等学問ノ法 附属小学演習

（注）『教育雑誌』第14号，明治9年9月2日発行，大塚綏郎訳「オスウィゴー師範学校一覧表」より。

表Ⅱ　The Oswego State Normal and Training Schoolのカリキュラム（1870年）

①

The Oswego State Normal and Training School のカリキュラム（1870年）

FIRST YEAR COURSES

Elementary English	Advanced English	Classical
First Term Arithmetic Grammar Geography Reading (last half) Spelling and Impromptu Composition Linear Drawing (daily) Penmanship (last half)	Same as first year of Elementary English Course	Same as first year of elementary English course
Second Term Arithmetic Grammar and Analysis (first half) Botany (second half) Rhetoric (first half) Reading (second half) Physiology and Zoology (first half) United States History (second half) Object and Perspective Drawing Composition (semi-weekly) Penmanship (first half) Vocal Music (second half) Light Gymnastics (daily)		

SECOND YEAR COURSES

②

SECOND YEAR COURSES

Elementary English	Advanced English	Classical
First Term Philosophy and history of education School Economy, Civil Government, and School Law Methods of giving object lessons, and of teaching the subjects of the elementary course Declamations, Essays, and Select Readings (The object lessons include lessons on objects, form, size, color, place, weight, sounds, animals, plants, human body, and moral instruction.)	*First Term* Algebra Natural Philosophy General History Light Gymnastics Geometry Compositions, Declamations Botany (half term) Select Readings Rhetoric and English Literature (half term)	*First Term* Algebra Geometry General History Light Gymnastics Botany (half term) Latin Compositions., Declamations Select Readings
Second Term Practice in Training School, Essays, Select Readings or Declamations	*Second Term* Algebra Bookkeeping Physical Geography Chemistry Geometry and Trigonometry Light Gymnastics Compositions, and Declamations, Select Readings	*Second Term* Algebra Light Gymnastics Bookkeeping Latin Physical Geography and Astronomy Geometry and Trigonometry Compositions, Declamations, Select Readings

③

THIRD YEAR COURSES

Elementary English	Advanced English	Classical
	First Term Same as the first term of the second year of the Elementary English Course *Second Term* Moral Philosophy Mineralogy and Geology Compositions Practice in Training School Methods in Higher Studies Light Gymnastics	*First Term* Latin Light Gymnastics Natural Philosophy Greek or Modern Languages Compositions, Declamations, Select Readings *Second Term* Latin Moral Philosophy Light Gymnastics Greek or Modern Languages Compositions, Declamations, Select Readings

④

FOURTH YEAR COURSE

Elementary English	Advanced English	Classical
		First Term Latin Light Gymnastics Philosophy of Education Greek or Modern Languages Methods of Giving Object Lessons, and of Teaching Subjects of the Elementary English Course Compositions, Declamations, Select Readings *Second Term* Latin Composition Greek or Modern Languages Methods in Higher Studies Mineralogy and Geology Practice in Training School

(Dearborn, N. H., The Oswego Movement in American Education, 1925)

表Ⅱは，1870年制定のオスウィーゴーN. S. のカリキュラムである（文献⑫）。表Ⅰとの間に5年の開きがあるが，内容はほとんど変わっていない。（ちなみに，訳語にも注目されたい。たいへん興味深いものがある）。

それでは，表Ⅰ・Ⅱを比較・参照しながら，カリキュラムの構造の特徴点を分析し，検討していくことにしよう。

表からわかるように，オスウィーゴーN. S. には，初級英語コース（2年制），上級英語コース（3年制），古典語コース（4年制）の3つのコースがあった。そして，そのいずれのコースへ入学する学生も，最初の1年間は，初級英語コースの第1学年のカリキュラムを履修するようになっている。

まず，各コースの最終学年の教育内容を見ていただきたい。各コースとも共通して，「教育理学」「教育史」「学校理財管理法」「教授法」などいわゆる教職専門科目にひじょうに重点を置き，附属小学校における教育実習をとくに重視している方針が一目瞭然である。——この点こそ，オスウィーゴーN. S. のカリキュラムの第1の，かつ最大の特色であったといえる。つまり，教職専門科目と総称される教育学が，教師に必要な教養として自覚的にとらえられていることである。これは，それ以前のアメリカのN. S. にはみられなかったことである。

第2の特徴点は，教育実習を重視することと深く関連していることであるが，教授法を実地に学ばせることが必要であることを強調するだけでなく，教授法そのものの改革を志向して，「ペスタロッチ主義」の教育原理にもとづく「実物教授（object-lessons）」法をカリキュラムの中へ大幅に導入し，教授法の研究・教授に多くの時間を当てていることである。

第3に，教職教養として，教育学や実習ばかりでなく，書くこと，読むこと，話すことを重視していることが注目される。教師の話し方の技術は，授業の質を大きく左右することに着眼していたのであろう。

以上の3点は，各コースに共通して指摘できる特色であり，しかも，いずれも教職科目にかかわっている。要するに，オスウィーゴーN. S. のカキュラムの最大の特徴点は，教職教養（教授の技術も含めて）を重視すること，換言すれば，教職の専門性を自覚的に追究した点にあるといえよう。

では，次に，各コース別に，カリキュラムの特徴点をみてみよう。

まず，高嶺秀夫の入学した2年制の初級英語コースから考察しよう。このコースは，その教科内容を，分野別に比較してみると，まず第1に，「文典（文法）」「読方」「作文」「論文」などの読み・書き教科，および「習画」「体操」「唱歌」などの芸能（芸術）教科が比較的多いということである。反対に，自然科学・数学関係は，「植物学」「生理学」「動物学」「算術」の3教科が，それぞれ半期あるだけで，非常に少ない。つまり，この2年制のコースは，教員の「短期・促成」養成の機関としての性格が強いことが，カリキュラムのうえから指摘できる。

3年制の上級英語コースのカリキュラムの特色は，第1に，第2学年に「普通学」を置き，その比重をかなり重くしているということである。2年制コースでは非常に少なかった数学・自然科学関係の教科（「代数学」「幾何学」「三角法」「記簿法」「物理学」「化学」）が，かなり増加している。同時に，文学の分野（「修辞」「作文」「弁論」「英語」「文学」）も増加しており，これに

よって，文学・自然科学・数学・芸術・教職の各分野のバランスが２年制コースよりもかなりとれるようになっている。

３年制の第２の特色は，教職専門科目を重点的に教授する最終学年においても，それだけを専ら教授するだけではなく，「いっそう高度な学問の方法（Methods in Higher Studies）」をも併せて教授することにしている点である。この点が，２年制コースとは違っている。

「普通学」の量的・質的拡充と教職専門科目の重視という方針との統合によって，２年制よりも，カリキュラムのうえで，よりいっそう充実したものになっていると言えよう。

最後に，４年制の古典語コースのカリキュラムをみてみよう。このコースは，３年制コースの「普通学」を，さらに１年間延長・増加したという構造になっている。「普通学」で追加された教科は，「ラテン語」「ギリシャあるいは近代国語」「作文」「弁論」「読方」で，すべて文学・文法関係である。したがって，この分野が占める比重は，こま数からだけみると約43％にもなる。これは，grammar schoolにきわめて近似したカリキュラムであるということができる。

文法・文学関係の分野が増えたため，他の分野は削減され，自然科学11％，数学13％，歴史・地理５％，技能20％，教職７％となっている。

教職教養は，３年制コースには入っていた「教育史」「学校理財管理法」「学校法」が除かれている。

以上の諸点を総合してみると，４年制の古典語コースは，初等学校の教員養成が目的ではなく，むしろ中等学校・初等中学校（grammar school）の教員養成を目的としていたのではないか，とカリキュラムのうえからは考えられる。

1887年（明治10）７月，高嶺は，このようなカリキュラム編成の特徴点をもつオスウィーゴーN. S. の２年制初級英語コース（Elementary English Course）を卒業した。卒業生45人中，男子はわずかに４人だけであった。

留学中の２年間，高嶺は，N. S. 授業の外に，余暇を利用して，ダーウィン・スペンサー・ハックスリー等の進化論も学んでいる。

また，卒業した直後の夏休みには，マサチューセッツ州セーレム（Salem）で開かれた夏期動物学校で，海産動物の構造・組織を研究し，さらに同年末の冬休みには，ニューヨーク州のオスウィーゴーの南方イサカ（Ithaca）の大学で動物学を研究している。

翌年（1878年，明治11）４月，帰国した高嶺は，さっそく東京師範学校の校長補および校長補心得に就任し，６月からは，教育学・動物学・教授法の授業を担当するようにもなった。この担当科目を見ると，滞米中，高嶺が学んだものがよく活かされていることがわかる。

そして，同年から翌年（1879年，明治12）にかけて，伊沢修二と共に，東京師範学校の根本的改革にのり出すのである。その改革に，オスウィーゴーN. S. で学んできたことがどのように活かされたか。――その検討は，他日を期したい。（1980年10月）

〔引用・参考文献〕

① 小林洋文「明治前期教員養成史研究――東京師範学校における教則の変化とその特質」東京大学大学院教育学研究科修士学位論文（未発表），1974

② 小林洋文・市川純夫・加藤素子・栗田美佐子「1879（明治12）年の東京師範学校の改革と The Oswego Movement（その１）」第34回日本教育学会発表資料（タイプ印刷），1975. 9. 5

③ 市川純夫「オスウィーゴ・ノーマルスクールにおける教員養成カリキュラムの分析と考察」『日本の教育史学』（教育史学会紀要）第19集，1976。この論文は，1975年の日本教育学会で発表した共同研究（上記文献②）を，さらに深めてまとめたものである。

④ 稲垣忠彦『明治教授理論史研究』評論社，1966

⑤ 佐藤秀夫「『近代学校』の創設と教員養成の開始」『日本教師６・教員養成の歴史と構造』明治図書，1974

⑥ 影山昇「オスウィーゴー運動と明治前期のわが国のペスタロッチー主義教育」『愛媛大学教育学部紀要』1976

⑦ 海後宗臣監修『日本近代教育史事典』平凡社，1971

⑧ 三好信浩『教師教育の成立と発展――アメリカ教師教育制度史論――』東洋館出版社，1972

⑨ Harper, C. A., A Century of Public Teacher Education, 1939, p. 122

⑩ Hollis, A. P., The Contribution of the Oswego Normal School to Educational Progress in the United States, 1896, p. 37

⑪ Borrowman, M. L., The Liberal and Technical in Teacher Education. 1956, p. 116

⑫ Dearborn, N. H., The Oswego Movement in American Education, 1925

⑬ Barnard, H., Normal Schools and other Institutions, Agencies and Means designed for the Professional Education of Teacher's, 1851